

(1) 現状・課題

- ① 現状、取り組んだこと（アウトプット）を自己評価しているため、定量的な評価が出来ていない。
（＝市民にどのような影響を与えたかが分からない）
- ② 成果（アウトカム）指標の導入にあたり、すべての施策に数値指標が存在するわけではない。
（＝定量的な評価が困難な施策も存在する）
- ③ すべての施策に定量的な評価を導入した場合、評価疲れへの懸念がある。
（他自治体にヒアリングした際、評価疲れや評価の目的化といった状況があることが分かった。）

(2) 方向性

- ① 成果（アウトカム）指標の導入により、定量的な評価を可能とする。
- ② 評価疲れを避けるため、特に重要と考えられる施策（※）について、アウトカム指標を導入する。
※施政方針、総合計画及び各課の手挙げにより抽出する。



ロジックモデルの導入・アウトカム指標による管理

2. ロジックモデルの導入目的・対象施策について

(1) ロジックモデルの導入目的

- ① 事業の目的・目標を明確にし、段階ごとに数値指標を設定することにより、事業改善をしていくこと
- ② アウトカム指標の導入により、定量的・客観的な評価を可能とすること
- ③ 地域福祉計画と関連計画それぞれで実施している評価を関連付ける（下記（2）参照）

※対象者を限定したモニタリングは想定しておらず、あくまで事業管理を目的として導入する。

(2) ロジックモデルの導入対象とする施策

地域福祉計画及び関連計画に記載があり、施政方針で打ち出している重要な取組

※関連計画以外の施策については、導入の対象としない。

第五次多摩市総合計画における将来都市像
～みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩～

第五次多摩市総合計画・第3期基本計画の基盤となる考え方
健幸まちづくりのさらなる推進

多摩市地域福祉計画（本計画）

障がい者基本計画
障がい児福祉計画
障害福祉計画

介護保険事業計画
高齢者居保健康福祉計画
介護保険事業計画

子ども・子育て
支援事業計画

自殺対策推進計画

再犯防止推進計画

成年後見制度利用促
進基本計画

住宅マスタープラン

地域防災計画

その他関連する計画

現状

地域福祉計画と関連計画はそれぞれに評価を実施

令和7年度～

（2）の施策についてロジックモデルを作成し、一部試行実施

令和8年度～

（2）の施策についてロジックモデルを作成し、
地域福祉計画において評価を実施

令和11年度～

関連計画においても、ロジックモデルを導入予定（調整中）

地域福祉計画では、基本施策の単位で、関連計画から施策を複数
抽出して評価を実施